

日本大学
生物資源科学部

校友会会報

2007 第60号



自主創造
日本大学

あなたとともに
100万人の仲間とともに

《目次》

校友会のあゆみと展望	2	工学会（生物環境工学科）	7
校友の絆から本学への帰属意識の醸成を ..	2	F T会（食品科学工学科）	8
平成19年度総会・懇親会	3	拓友会（国際地域開発学科）	8
平成18年度校友会決算および		むつあい会（短期大学部農学科）	9
平成19年度校友会会計予算	3	生活環境学科校友会	
農学校友会（植物資源科学科）	4	（短期大学部生活環境学科）	9
紫友会（農芸化学科）	4	応用生物科学科校友会	
角笛会（獣医学科）	5	（応用生物科学科）	10
満喜葉会（動物資源科学科）	5	支部だより	10
いもづる会（食品経済学科）	6	校友だより	11
あすなろ会（森林資源科学科）	6	校友会事務局からのお願い	11
桜水会（海洋生物資源科学科）	7	校友会役員・事務局名簿	12

「酒井学部長(本学部校友会名誉会長)が日本大学副総長に就任されました。」

日本大学生物資源科学部 酒井健夫学部長が9月1日付で、日本大学副総長(総長代理・代行者)に就任されました。

先生は昭和41年に農獣医学部獣医学科を卒業され、農獣医学部専任講師、助教授を経て、平成5年教授になられ、病院長、学部次長を経て同17年学部長、そしてこの度、日本大学副総長に就任されました。

生物資源科学部校友会の名誉会長でもあり、副総長に就任されましたことは、我々校友会として、大変喜ばしい事であり、謹んでお祝い申し上げますとともに、今後ともご健勝で大学の発展、そして学部の発展にご活躍されますことを、心よりお祈り申し上げます。

校友会のあゆみと展望

日本大学生物資源科学部校友会 会長 茂 澤

日本大学校友会が、平成14年自立自助の精神で新生校友会として発足して早や5年が経ちました。校友会本部の組織単位である14学部校友会は、再三再四にわたる検討の末一致結束して、改革と新事業運営に協力することを誓いました。65都道府県支部、各学部校友会、その他協賛する団体などこの間の調整、就中、理系文系の温度差、各学部校友会の歴史的背景等尊重し運営するには相当な時間を要しました。入会金を納めた卒業生を正会員とし、将来正会員となってもらいたい現在の学生諸兄姉を準会員として位置づけ、会費を頂きスタートしました。一度校友会本部に入った納入金を各学部校友会、全国支部校友会に還付金として配分し、夫々の比率に応じて



寄付金贈呈式 (9月27日)

交付され、校友会運営活動資金に充当しました。最も夫々の学部校友会が所有する財産については、そのままとして維持尊重されました。従って校友会組織が、卒業生だけを対象とした形態から、更に進展して現在の学生諸兄姉(準会員)に対する後援等具体的に明示する大役が課せられておりますことは周知の通りです。内容等については、4年有余にわたる校友会報の各号に説明していますのでご高覧頂きたいと思います。要は、何時にても校友会の姿勢が、資金運用について明確に開示説明出来る存在でなければなりません。

私は、平成14年学部校友会報55号に、日本大学校友会の抱負と題して述べた自負があります。その後この大改革には、いろいろの難題が生まれてきました。特に他学部でない私達の校友会は、13学科が夫々校友会組織を持ち、その誕生も先発校友会、後発校友会がありこの格差調整が必要となり、夫々の役員スタッフが英知を出し合い談論風発しながらも、学部校友会を維持進展して参りました。

ご記憶の方も多いと思いますが、思いますに平成10年学部校友会創立50周年に、記念事業の一環として、正式な学部校友会旗と略旗を作成しました。地元の亀井野御嶽神社から嶽山宮司

杲

をお招きし入魂の儀を執り行い、時の瀬在幸安総長、森田賢司理事長、故門田定



美学部長にも玉串奉奠をしていただきました。

それは校友会がこの会旗の下に多数集まって欲しいとの直截の念願であり、毎回の懇親会には掲揚しております。

校友会は、会則の目的達成に努力する所に意義があります。成果の無い侃侃諤諤のエネルギーを費やす必要はなく、むしろ懐かしい終りのない校友とのコミュニケーションを大事にして、一層絆を強固なものとし先輩同輩後輩ともども、絶えず敬意と感謝の気持を持ってゆかねばなりません。誰がやっても同じだなどと面従腹背のたわごとは許せません。

言行に責任を持ち、結束して母校発展に寄与してゆくことを只管切望いたします。

学部校友会もいよいよ来年創立60周年を迎えます。準会員を強力に支援し、また校友間の向上と親睦を重ねつつ、学部当局にも協力しながら、私は残された任期を全うする所存です。

校友の絆から本学への帰属意識の醸成を

日本大学生物資源科学部 学部長 酒 井 健 夫

日本大学生物資源科学部校友会の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。皆様には本学部、大学院、短期大学の学生諸君に対する奨学金の提供などのご支援をいただき心から感謝申し上げます。お蔭さまで平成8年度から始めましたキャンパスの整備並びに再配置は計画通りに進み、今年の7月末の6号館の改修工事終了をもって、全て完了しました。また、富士自然教育センター宿泊施設の新築工事も7月末で完了し、教育・研究に活用されています。加えて平成18年3月にISO14001の認証を取得したキャンパス内の環境整備についても、現在その適用施設の拡大を図っています。

本キャンパスは11の専門分野からなる学部、2つの専門領域で構成される大学院研究科、学部と教育連携が強化された短期大学部1学科を擁するミニ・ユニバーシティの規模を誇り、7300名の学生諸君が勉学に勤しんでおります。一方、大規模な組織でありながら、実習、実験、演習、ゼミナールにおいては少人数体制によるきめの細かい教育を心がけ、学生諸君の研究室所属制度によって教員からの丁寧で親切な指導を受けることができ、さらには体験学習を重視した教育指導を教職員が丸となって取り組んでいます。このように、教育・研究環境を大幅に改善して、学生諸君が満足する教育サービスの提供を図っています。

わが国では今日、少子化が大きな社会問題

になっていますが、地球規模に目を向けると今世紀の半ばには、世界の人口は現在の2倍の約90億人に達すると予測されています。環境問題とともに食糧問題は人類にとって最重要課題と言えます。したがって、今後とも生命科学、資源生産科学、環境科学を教育・研究の主要な柱としている本学部・大学院・短期大学部が活躍する好機でもあり、さらなる発展に向けて学科や専攻の教育環境の整備、入試改革、カリキュラムの見直し等を積極的に進めてまいります。

私立大学にとって、学生諸君の大学に対する帰属意識の醸成と高揚は重要な課題であります。建学の精神を持たない国公立大学と異なり、私立大学は高等教育機関としてそれぞれ固有の建学の精神に基づいて教育・研究指導に当たるといった特徴を有しています。人材育成を図ることについては、国公立大学と私立大学で大きな違いはありませんが、建学の精神に基づいた教育の理念と目標を明確に追求し、それらを反映した個性豊かな教育を推進することは私立大学だけと言えます。

日本大学の建学の精神の軸を成す「自主創造」は、本キャンパスで学んだ校友会の皆様、現在学んでいる学生諸君、その指導に当たっている教職員を強く結束させる共通の理念でもあります。この三者が同じ目的・目標を共有できる日本大学の建学の精神を通して、卒前教育と卒後教育の一体化を図り、建学の精神を理解し

た人材を育成することが日本大学の校風と伝統を継承するものと考えております。



このような日本大学の建学の精神である「自主創造」を理解し、高度専門知識と技術を学び、倫理感と判断能力を持った人材を育成することこそ、大学間競争が激化する中で、生物資源科学部、大学院生物資源科学研究科、同獣医学研究科、短期大学部生物資源学科が他に抜き出る「鍵」ではないでしょうか。このような視点からも本学部、大学院、短期大学部では、学生諸君の日本大学に対する帰属意識の醸成を図るため、全力を挙げて取り組んで参ります。

大学は人材育成を図ることが社会に対する責務でありますので、学生諸君の適性に合わせ、希望を叶える進路を指導できるかが重要であります。社会の大学に対する評価は、出口管理である進路指導の実績に基づくといつて過言ではありません。そこで、永い歴史と伝統を有する生物資源科学部校友会の皆様には、学生諸君の進路指導である就職活動についてもご支援いただければ幸いです。

末筆ではございますが、生物資源科学部校友会の皆様の一層のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

平成19年度総会・懇親会開催される

最近2年間は都心の交通の便が良いところと云うことで赤坂プリンスホテルにて開催されてきたが、学部の校舎、施設も大きく変わってきていることから今年は久しぶりに学部内で行われることとなった。総会は学部一の高さを誇り、富士山や江ノ島を望むことが出来る本館棟NU階(13階)にあるNUホールAという会場が用意されたが、生憎の大雨となり景色が見えず誠に残念でした。その中で53名の多くの校友諸氏をお迎えし、14時から内田駿一副会長(満喜葉会々長)より開会が宣せられ、茂澤早校友会々長(紫友会々長)から、「校友会発展の歴史は学部によって異なるが、大学と校友会との協力により、着々と歴史は刻まれ、平成14年会報に校友会改革の骨子を掲載したが以後、準会員に対する補助制度の拡充、校友会館建設促進等、校友会運営は日本大学精神である自主創造を規範として、皆様と一緒に歴史と伝統の絆を強固にし、後1年の任期を全うしたい。」と挨拶があった。議長には中川秀樹副会長(角笛会々長)を、議事録署名人には鈴木勝春副会長(むつあい会々長)と江刺琢磨代表幹事(紫友会副会長)とを選任し議案審議に入った。議案1の平成18年度事業報告については石川稔矩総務委員長(農学校友会副会長)から報告があり、承認された。議案2の平成18年度会計決算報告、議案3の監査報告について内田俊太郎財務委員長(拓友会々長)から、来年度から従来の単式簿記から複式簿記に変更していく旨説明があった。千田徹監事(いもづる会)から監査回数が増え熱心に監査が実施されたが準会員からの会費が大幅に伸びていることから、監査実施に当たり監事が主導していきたいとの発言があった。会計議案2件を一括して会場に賛否を諮ったところ拍手多数で原案



通り承認された。議案4の平成19年度事業計画について石川総務委員長から、「会議の増加による情報公開への努力、60周年記念行事開催、学科の統廃合による校友会での対応、学部学科学術研究支援策等、今後の新しい課題及び従来からの施策拡充について」説明があった。議案5の会計予算案について内田財務委員長から準会員対応が拡充されている点等新しい施策について説明があった。関連2議案を一括審議した結果、拍手多数で承認された。議案6その他で、本日懇親会にて表彰予定の平成19年度会長賞候補者について石川総務委員長から紹介があり、原案通り承認された。(詳細下記記載)議事は滞りなく終了し、赤塚敏夫副会長(あすなろ会々長)から閉会の辞が述べられ、総会は閉会した。

引き続き懇親会は食堂棟3階に席を移し、日本大学小嶋勝衛総長・理事長、生物資源科学部酒井健学部長、校友会本部から若女井事務局長・本部長、各学部から校友会々長など多数の来賓をお迎えし、悪天候にも拘わらず準会員12名も参加し、合計135名により賑やかに開催された。司会進行を石川稔矩総務委員長が務め、校歌斉唱は昨年同様、吉田良之副会長(桜水会々長)の指揮により声高らかに斉唱した。茂澤早会長挨拶に続き来賓者

の方々が紹介され、小嶋総長・理事長、若女井校友会事務局長・本部長、酒井学部長からご祝辞を頂いた。本日ご出席頂けなかった田中英壽校友会々長からは祝電を頂き披露された。本年度は6名の会長賞と1名の叙勲お祝い対象者がおられ、農学校友会から山下安夫様(昭和31年卒、地域産業振興功労により黄綬褒章受章)、坂本正次様(昭和46年卒、国際園芸博覧会1位金賞受賞などアジサイ・シクラメンの新種生産に貢献)、飯田智司様(昭和58年卒、トマト栽培で農林水産大臣賞、全農会長賞、内閣総理大臣賞等受賞)の3名、角笛会から日比野次郎様(昭和14年卒、現アニマルメディアセンターの移転事業に貢献や永年角笛会々長職への功績)、田中延吉様(昭和19年卒、永年角笛会々長職にあり、獣医学科創立80周年記念式典開催への功績)の2名、あすなろ会から浜中良平様(昭和40年卒、藍綬褒章受章、三重県林業界への貢献から県知事賞、保護司として青少年健全育成貢献から法務大臣賞受賞による)、叙勲授章お祝いとして紫友会から露木英男様(昭和24年卒、瑞宝中授章受章、本学名誉教授・日本食品業界及び学部教育に貢献)の紹介があり、本日ご出席頂いた田中様、飯田様、山下様、露木様、4名の方々が大きな祝福の拍手の中、茂澤早会長から賞状と記念品が授与された。紫友会の江刺琢磨副会長の音頭による乾杯の後、懇談に入った。外の大雨をものとはせず、和やかに旧交を温め、来賓を囲んだ懇談の輪も沢山で有意義な時間が流れた。中締めは関村具由副会長(FT会々長)が拍子木による3本締めを行い閉会した。名残が尽きない中、再会を約して散会した。本年も日本大学食品加工実習所のご協力を頂き、特製肉製品がお土産として配られ、好評を博した。

平成18年度校友会会計決算および平成19年度校友会会計予算について

平成19年度の校友会予算の特徴は次の様になりました。

- 1) 準会員対応費として校友会奨学金などを大幅に増額した。
- 2) 分会・他学部・支部との連携強化、事務局強化のための費用を増強した。
- 3) 事業費は緊縮財政の元、ホームページ充実や校友会発展の為の経費は強化した。
- 4) 60周年記念行事開催の準備として基金積立金を増加した。

会 長 茂 澤 果				
(収入の部)				
科 目	18年度予算(A)	18年度決算(B)	差異増減(B-A)	摘 要
1 前年度繰越金	5,376,953	5,376,953	0	
2 会 費	41,840,000	41,181,939	△658,061	
11 準会員連付金	41,000,000	40,518,000	△482,000	66,000×7.63%本部より連付
12 旧準会員入会金	840,000	663,939	△176,061	旧準会員より連付
13 旧準会員退会金	2,400,000	213,000	△2,187,000	62,400×3.5%本部より連付
3 会費合費・税金	1,450,000	1,409,000	△41,000	総会、懇親会、幹事会費・税金
4 預 金 利 子	100	7,414	7,314	
5 雑 収 入	947	0	△947	
収入 合 計	48,668,000	47,975,306	△692,694	
(支出の部)				
科 目	予 算	決 算	差異増減	摘 要
1 分会交付金	20,842,000	20,752,000	△90,000	13分会
(1) 准 会 員	20,392,000	20,302,000	△90,000	63,000×1.43%本部より連付
(2) 旧 準 会 員	550,000	450,000	△100,000	60,000×1.67%本部より連付
2 経 常 費	10,270,000	9,039,707	△1,230,293	
(1) 人 件 費	3,100,000	3,020,364	△79,636	事務局給与・アルバイト手当等
(2) 本部分担金	470,000	470,000	0	日本大学校友会本部
(3) 事務局経費	800,000	788,789	△11,211	事務局経費他
(4) 雑 費	2,800,000	2,312,588	△487,412	全学連・全学連補助金
(5) 会 費	1,000,000	1,009,238	△99,762	幹事会、常任幹事会等
(6) 交 際 費	800,000	611,750	△188,250	分会・支団、他学部等祝金他
(7) 交 通 費	1,500,000	1,135,970	△364,030	支部間交通費・事務局交通費
3 事 業 費	14,800,000	12,344,028	△2,455,972	
(1) 総 費	2,500,000	2,466,627	△33,373	全学連・全学連補助金
(2) 交 際 費	1,500,000	1,355,350	△144,650	学連で総会・懇親会開催予定
(3) 経 営 費	100,000	99,945	△55	委員会・全学連開催費等
(4) 経 営 費	100,000	53,040	△46,960	委員会開催費等
(5) 経 営 費	100,000	101,069	△969	委員会開催費等
(6) 経 営 費	200,000	0	△200,000	学連・全学連事業支援
(7) 経 営 費	100,000	0	△100,000	学連・全学連事業支援
(8) 準会員対応費	4,500,000	4,304,400	△195,600	学連・全学連事業支援
(9) 会費合費・税金	500,000	0	△500,000	校友会長賞、表彰記念品他
(10) 経 営 費	500,000	533,397	△33,397	60周年記念事業費(一併注付)
4 予 備 費	2,756,000	0	△2,756,000	60周年記念事業費(一併注付)
当期支出合計	48,668,000	42,725,735	△5,942,265	
5 次年度繰越金	0	5,249,571	5,249,571	
支 出 合 計	48,668,000	47,975,306	△692,694	
【積立金】				
科 目	予 算	決 算	差 異	摘 要
名 簿 積 立 金	4,979,351	4,979,351	0	二葉会・四葉会・五葉会・六葉会
基 金 積 立 金	17,054,973	17,054,973	0	三井住友銀行・定期・利子
準 会 員 積 立 金	49,667	49,667	0	三井住友銀行・普通
積 立 合 計	22,083,991	22,083,991	0	

会 長 茂 澤 果				
(収入の部)				
科 目	19年度予算(A)	18年度決算(B)	差異増減(A-B)	摘 要
1 前年度繰越金	5,249,571	5,376,953	△127,382	
2 会 費	42,317,667	41,181,939	1,135,728	
11 準会員連付金	42,252,000	40,518,000	1,734,000	66,000×7.63%本部より連付
12 旧準会員入会金	49,667	663,939	△614,272	全学連より連付
13 旧準会員退会金	216,000	213,000	3,000	62,400×3.5%本部より連付
3 会費合費・税金	1,000,000	1,409,000	△409,000	総会・懇親会
4 預 金 利 子	5,000	7,414	△2,414	
5 雑 収 入	10,729	0	10,729	校友より寄附10,000円
収入 合 計	48,782,967	47,975,306	807,661	
(支出の部)				
科 目	19年度予算	18年度決算	差異増減	摘 要
1 分会交付金	21,126,000	20,752,000	374,000	12分会交付金
(1) 准 会 員	21,126,000	20,302,000	824,000	63,000×1.32%本部より連付
(2) 旧 準 会 員	0	450,000	△450,000	60,000×1.0%本部より連付
2 経 常 費	10,870,000	9,039,707	1,830,293	
(1) 人 件 費	3,700,000	3,020,364	679,636	事務局給与・アルバイト手当等
(2) 本部分担金	470,000	470,000	0	日本大学校友会本部
(3) 事務局経費	800,000	788,789	11,211	事務局経費他
(4) 雑 費	2,800,000	2,312,588	487,412	全学連・全学連補助金
(5) 会 費	1,000,000	1,009,238	99,762	幹事会、常任幹事会等
(6) 交 際 費	800,000	611,750	188,250	分会・支団、他学部等祝金他
(7) 交 通 費	1,500,000	1,135,970	364,030	支部間交通費・事務局交通費
3 事 業 費	14,650,000	12,344,028	2,305,972	
(1) 総 費	2,000,000	2,466,627	△466,627	学連で総会・懇親会開催予定
(2) 交 際 費	1,500,000	1,355,350	144,650	学連・全学連開催費等
(3) 経 営 費	150,000	99,945	50,055	委員会・全学連開催費等
(4) 経 営 費	150,000	53,040	96,960	委員会開催費等
(5) 経 営 費	150,000	101,069	48,931	委員会開催費等
(6) 経 営 費	200,000	0	△200,000	学連・全学連事業支援
(7) 経 営 費	100,000	0	△100,000	学連・全学連事業支援
(8) 準会員対応費	5,000,000	4,304,400	695,600	学連・全学連事業支援
(9) 会費合費・税金	500,000	0	△500,000	校友会長賞、表彰記念品他
(10) 経 営 費	300,000	533,397	△233,397	60周年記念事業費(一併注付)
4 予 備 費	4,000,000	0	4,000,000	60周年記念事業費(一併注付)
当期支出合計	48,782,967	42,725,735	6,057,232	
5 次年度繰越金	0	5,249,571	5,249,571	
支 出 合 計	48,782,967	47,975,306	807,661	
【積立金】				
科 目	19年度予算	18年度決算	差 異	摘 要
名 簿 積 立 金	4,979,351	4,979,351	0	
基 金 積 立 金	21,054,973	17,054,973	4,000,000	60周年基金
準 会 員 積 立 金	0	49,667	△49,667	
積 立 合 計	26,034,324	22,083,991	3,950,333	

農 学 校 友 会

◇植物資源科学科◇

連絡先 作物学研究室
0466-84-3502 事務局長 藤井 秀昭
E-mail: fujitaki@brs.nihon-u.ac.jp

平成19年度農学校友会 総会・懇親会開催



平成19年度農学校友会総会・懇親会

平成19年5月12日(土)午後1時から湘南キャンパス博物館棟第1会議室において平成19年度総会が開催されました。楠元会長の挨拶の後、平成18年度事業報告、会計決算報告、会計監査報告があり、承認されました。続いて、平成19年度事業計画案、予算案が審議され、原案どおり承認されました。本年度事業として、名称変更、活性化検討、会報第9号の発行、ホームページの立ち上げ等を行うこととなった。総会の後、多数の来賓と会員が出席した懇親会が本館カフェテリア“スエヒロ”で盛大に行われました。

学科行事への援助

新入生歓迎会、藤桜祭、収穫祭、卒業謝恩会に対し補助金を提供しました。また、卒業生全員に記念品を贈呈しました。5月末に実施された

学部行事スポーツフェスタに合わせ、新しく決まった校友会ロゴが印刷されたTシャツを贈りました。

植物資源科学科の近況



スポーツフェスタ2007

〔卒業・新入学生〕

昨年度は151名の学生が卒業し、社会に巣立って行きました。4月には新入生147名(男子:89名、女子58名)を迎え、本年度は総数601名の学生が在籍しています。4月21日(土)に国営昭和記念公園にて新入生オリエンテーションが行われました、公園職員の解説をお聞きした後、広大な園を散策し、上級生のリードによってフィールドでのゲームを学科教員と一っしょに楽しみました。5月26日(土)には学部運動会スポーツフェスタ2007が開催されました。新入生が校友会から贈られたTシャツを着て大活躍し、総合4位となりました。

〔海外派遣〕

造園学研究室の葉山嘉一准教授は4月から6ヶ月の予定で、日本大学中期海外派遣研究員としてルイジアナ州立大学に出張されています。造園緑地計画・デザイン教育手法等に関して研究を進められています。

〔海外研修〕

他学科学生3名を含めた20名の学生が参加して国立中興大学(台湾)での農業・自然資源研修が8月15日～28日の14日間にわたり実施されました。熱帯農業に関する講義、農場実習、農業施設見学、討論会などが行われ、全員に修了証が授与されました。この間、台湾の学生と本学学生間の交流も盛んに行われました。

〔人 事〕

昨年9月には、遺伝育種学研究室の池橋宏教授が定年退職されました。池橋先生は平成12年から植物育種学をはじめ多くの講義を担当されました。この間、学部学生



はもちろん、博士課程1名、修士課程7名を育てました。本年4月から花弁園芸学研究室教授として腰岡政二先生が着任されました。腰岡先生は大阪大学大学院薬学研究科をご卒業の後、「生葉決明子の品質評価に関する研究」で薬学博士号、「植物培養細胞系を用いたジベレリンの代謝研究」で農学博士号を取得されています。静岡県立薬科大学助手を経て 黒澤恵子 実習助手農水省に入省され、農業環境技術研究所、野菜・茶業試験場でご活躍の後、花卉研究所所長を務められていました。学科事務室に黒澤恵子実習助手が着任しました。黒澤さんは本年3月に本学科をご卒業になりました。



訃 報

永年にわたり学科のためにご尽力いただいた米田和夫前教授が本年8月13日に脳卒中のためご逝去されました。ご冥福をお祈りいたします。

紫 友 会

◇農芸化学科◇

連絡先 酵素科学研究室
0466-84-3945 荻原 淳

平成18年度総会・懇親会を開催

平成18年度の紫友会総会が平成18年10月27日(金)メルパルク横浜(横浜市、中区)にて開催されました。総会では茂澤晃会長の挨拶の後、平成17年度の事業報告、決算報告、監査報告ならびに平成18年度の事業計画、予算案について厳正に審議がなされ、いずれも承認されました。総会の後、学部長以下執行部の諸先生をはじめとして多数の来賓と会員が出席し懇親会が盛大に行われました。懇親会には紫友会平成18年度(第13回)奨学生が招待され、懇親会の席上で表彰が行われました。

平成19年度第14回紫友会奨学生決定

紫友会40周年記念事業の一環として発足した紫友会奨学生の第14回生9名が、同奨学生選考委員会(奥忠武委員長)により厳正に選考され下記のように決定いたしました。

2年次 浅見 琴、浦本 渚、菊池まどか
3年次 加藤昇吾、小井土直子、山本慎一郎
4年次 川村亜由美、永野景子、藤井千尋
(敬称略)

農芸化学科の近況

農芸化学科は本年4月に新入生130名(男子:75名、女子55名)を迎え、総計592名(男子:303名、女子:289名)の学生が在籍しております。学部次長に徳山龍明教授が就任され活躍されております。本年度より学科主任に奥忠武教授が就任されております。また、生物資源科学研究科生物資源利用科学専攻主任に櫻井英敏教授が就任されております。

熊谷日登美准教授(食品化学研究室)は「陽イオン交換樹脂を用いた食品タンパク質の機能改善研究」の業績により2006年度第11回安藤百福賞優秀賞を受賞されました。この研究は脱アミド化した大豆タンパク質がカルシウム吸収促進効果を有することを見出したものであり、今後の食品産業への応用が期待されます。

川東正幸専任講師(土壌学研究室)は「土壌環境指標としての土壌有機物の組成と構造特性」の研究業績により(社)日本土壌肥料学会奨励賞を受賞されました。この研究は土壌有機物を土壌環境中に存在するタイムスケール、すなわち寿命が短いものと長いものに分けて、それぞれを特徴付ける指標値の検索を行ったものです。先生の益々のご活躍が期待されます。

奥忠武教授ら(生物有機化学研究室)は遺伝子組み換えにより光合成の明反応と暗反応を同時に増強し、植物の成分や成長を向上させることに世界で初めて成功しました。今後の生物資源であるバイオエタノール、木材やパルプ、観賞用や食糧用の

植物などの増産のみならずCO₂削減など、環境保全・修復への応用が大いに期待されます。

〔人 事〕

昨年退職されました河内隆専任講師の後任として本年4月1日に、袴田航専任講師(生物有機化学研究室)が着任されました。先生は本学大学院農学研究科農芸化学専攻博士後期課程を修了されました後、厚生労働省 国立医薬品食品衛生研究所有機化学部にてご活躍でありました。先生のご研究の益々のご発展が期待されます。



袴田 航 専任講師

紫友会事務局より

平成19年度より紫友会事務局長は隅田裕明准教授より加藤順専任講師に交代しました。

校友会活動の一環として、紫友会杯研究室対抗ソフトボール大会が平成18年10月に開催され食品化学研究室が優勝しました。表彰式の後、学生教職員、紫友会会長、副会長の方々と懇親会が開催されました。

農芸化学科のホームページをリニューアルしました。卒業生の皆様向けの情報も積極的に発信して参りますので是非ご覧下さい。(荻原 淳)

角 笛 会

◇獣医学科◇

連絡先 獣医公衆衛生学研究室
0466-84-3386 事務局長 丸山 総一
E-mail: tsuno-2@brs.nihon-u.ac.jp

平成19年度角笛会総会開催



平成19年6月2日(土)、午後15時20分頃から日本大学湘南校舎第4講義室で、平成19年度の角笛会総会が開催されました。昨年度と同様に、午前中は第45回日本大学獣医学会、午後からは角笛会という合同開催のスタイルでした。角笛会の幹事会、総会の冒頭に中川会長から「今年は獣医学科創立100周年記念式典が予定されており、多くの会員に参加を呼びかけ、この慶事を是非とも盛会にしたい。」と挨拶がありました。続いて事務局から提出された平成18年度の事業報告、会計報告が、山村徳積監事の監査報告の後、承認されました。平成19年度事業計画案、同予算案も審議され、承認、成立致しました。本年度のANMEC(日本大学動物病院)支援基金は、岡田みどり先生の「骨髄空洞症についての疫学調査」ならびに手島健次先生の「犬の麻酔時低血圧

および徐脈に対する強心昇圧剤の有用性に関する研究」にそれぞれ授与されました。

4名の新支部長の就任に伴う幹事候補と今年度卒業のクラス幹事橋本岳樹氏、大森澄枝氏がそれぞれ承認されました。総会終了後、今年の角笛会功労者10名に記念品目録とともに表彰状が授与されました。

午後4時30分からNUBSホール3階にて催された懇親会には、茂澤某校友会会長をはじめ同僚校友会の来賓の方々、校友、獣医学科教員を含め約70名に参会いただきました。懇親会は、和やかな雰囲気のもとに進行し、会場のあちこちで談笑の輪ができていました。

獣医学科の近況

6号館改修工事

獣医学科と動物資源科学科で使用している6号館の改修工事が7月に終了しました。獣医学科は1階(獣医解剖学研究室、獣医病理学研究室、学科事務室)、2階(獣医生理学研究室、獣医微生物学研究室、獣医薬理学研究室、獣医生化学研究室)、3階(医動物学研究室)に再配置されました。1研究室あたりの面積も広くなり、研究活動ならびに学生教育環境が一層充実しました。

獣医師国家試験

第58回獣医師国家試験には、日本大学獣医学科からは136名が受験し、129名が合格しました。合格率は94.9%(全国平均91.5%)で全国(全国公立私立大16校を合

めて)第3位、私立大学では第1位でした。獣医学科ではここ数年、年4回の国家試験模試と試験後の解説ならびに国家試験に対応した授業の充実など積極的な努力を行っています。今回の結果は昨年同様、受験生ならびに教職員の熱意が実を結んだものと信じています。

表彰、受賞

平成18年度卒業生のうち優等賞が大森澄枝さん、学部長賞が中西照幸教授(対象:日本水産学会賞)、早川利里さん、小宮英明さん、日本獣医師会会長賞が白田里美さん、体育部門優秀賞は小巻なつ実さん、角笛会会長賞は中原美喜さん、田口文香さんにそれぞれ授与されました。

博士(獣医学)の学位取得者

課程博士:岡村智崇氏、加藤友香氏、佐藤 豪氏、佐藤哲朗氏、手島健次氏

人事・昇格

山谷吉樹専任講師(総合臨床獣医学)と浅野和之専任講師(獣医外科学)がそれぞれ准教授に昇進されました。高橋朋子助手(総合臨床獣医学)が獣医放射線学研究室の専任講師として昇進・移動されました。



手島健次助手

新 任

手島健次助手(獣医外科学)が着任しました。(鯉江 洋)

満 喜 葉 会

◇動物資源科学科◇

連絡先 草地学研究室
0466-84-3652 事務局長 丹羽 美次
E-mail: niwa@brs.nihon-u.ac.jp

平成19年度満喜葉会活動報告



【創立60周年記念祝賀会の開催】

創立60周年記念祝賀会が、平成19年5月12日(土)、学部食堂棟3階において開催されました。開会の辞、物故者への黙祷、内田満喜葉会会長、泉水学科主任の挨拶の後、功労者への感謝記念品の贈呈、また、来賓者を代表して茂澤学部長校友会会長、酒井生物資源科学部長から祝辞を頂きました。鏡開きの後、約2時間半に渡る祝宴は盛大に執り行なわれました。また、祝賀会に先立ち企画されたキャンパスツアーには、20名を超える方々に参加頂きました。

【満喜葉会役員会、新入生歓迎会の開催】

役員会は、平成19年5月26日(土)午後2時より学部資料館2F第1会議室において

開催されました。役員会は、内田会長を議長として議事に移り、平成18年度事業報告、決算報告が事務局よりなされ、承認されました。また、監事より会計監査結果についての報告がなされ、承認されました。続いて、平成19年度の事業計画ならびに予算案が事務局より提案され、承認されました。また、先に開催された60周年記念事業の会計報告(暫定)が事務局よりなされました。

役員会の後、午後4時より食堂棟において、恒例の動物資源科学科新入生歓迎会が学科・満喜葉会の協賛、学術研究部の協力のもと行われました。

学科の近況

【卒業生、新入生】

平成18年度は152名が卒業し、満喜葉会正会員の仲間入りをしました。本年度は、167名(男子80名、女子87名)が動物資源科学科に入学しました。

【退職・昇格・新任】

阿部 亮教授(動物栄養科学研究室)、伊藤敬敏教授(畜産食品科学研究室)、長沼恵理副手は、平成18年3月31日付で退職されました。また、川路利一助教授は、4月1日付で教授(研究所)に昇格されました。



梶川 博 准教授



鈴木佳代 実習助手

本年4月1日付で、梶川 博先生が准教授(飼養学研究室)として、鈴木佳代さん(平成18年度本学部生物環境工学科卒)が実習助手(学科事務室)として採用されました。

【6号館の研究室再配置について】

昨年12月より7号館3、4階での7ヶ月に渡る仮住まいを終え、6号館の全面的な改装に伴う研究室の再配置が、本年8月終了致しました。新6号館は畜産食品科学研究室(以前まではミルクプラントに配置)を含めた動物資源科学科全研究室と獣医学科基礎系研究室の配置となり、当学科の研究室占有スペースとしては、4階全フロアと3階フロア(一部獣医学科研究室が配置)が当てられています。新研究室は、以前の研究室スペース(基本的に各研究室3スパン)より大幅に拡張され(基本的に5スパン)、今後の更なる研究・教育活動の活性化が期待されます。各研究室の配置と所属教員は以下の通りです。

4階:動物生体機構学(遠藤教授、加野准教授)、動物育種学(泉水教授、山室准教授)、資源動物管理学(川路研究所教授)、生産環境学(塩谷准教授)、畜産食品科学(宮原教授、増田准教授)、動物生殖学(甲斐教授、園田専任講師)、野生動物学(村田教授、岩佐専任講師)

3階:草地学(丹羽准教授、佐伯助手)、飼養学(小牧教授、梶川准教授)、畜産経営学(小林教授、小泉准教授)、学科事務室(成島副手、鈴木実習助手)

いもづる会

◇食品経済学科◇

連絡先 食品経済学科事務室
0466-84-3420 齋藤、水野
E-mail: feckoyu@brs.nihon-u.ac.jp

平成19年度 幹事会・懇親会を開催

平成19年度の幹事会および懇親会が6月2日(土)に行なわれました。幹事会は午後4時から本館10階の食品経済学科会議室で、懇親会は地下1階のカフェテリアで開催されました。幹事会では平成18年度の活動報告、会計報告と、平成19年度の活動計画、予算案には、来年迎える「いもづる会創立60周年」に向けて始動している事業活動も承認されました。学科の活性化に向けて、卒業生による就職活動体験報告会を通じて現役学生との活発な交流が行われることが大きな目標として掲げられ、その事業が昨年度からすでに開始されるとともに成果の一部が学科HPにも掲載され、今年も期待されるところです。懇親会は多数のご来賓、会員に出席頂き、学生幹事も含めて約60名の参加者により、盛大に行われました。

学生の近況

【新入生】

今年の4月、当学科では168名(男子98名、女子70名)の新入生を迎えました。新入生の相互交流や教職員、上級生とのコミュニ

ケーションを図ることを目的とした恒例の新入生研修会は、4月21日(土)に鶴沼海岸で実施しました。あいにくの強風で地引き網は出来ませんでしたが、ビンゴ大会、上級生による学生生活の過ごし方のアドバイスなどを行い、鶴沼海岸で採れた魚の天ぷらをお土産として持ち帰りました。一方、好天に恵まれ久しぶりにグラウンドで開催された5月26日(土)の「スポーツフェスタ2007」では、昨年に引き続き学生のデザイ



ンによる揃いのTシャツで相互の連帯意識も深まり、熱気のこもった応援により3位入賞を果たしました。

【多様な現地研修】

2004年度から始まった多様な現地研修が定着しつつあり、インターンシップでは9名の学生が食品メーカーや流通業などで研修を行い、いきいきとした体験報告を行いました。また、海外フードシステム現地研修では12名の学生が8月26日から9月3日までタイを訪問し、アジアにおける食料生産から加工、流通、外食産業の実態を学ぶと共に、タイのカセサート大学およ



びコンケン大学の学生との交流の機会も持つことが出来ました。

【人事】

本年3月末日をもって副手のの中川史子さんが退職されました。4月には水野如美実験助手が着任されたほか、稗貫峻先生が短大教授から当学科教授として昇格されました。10月には長期海外派遣研究員として昨年からアメリカへ留学されている大石敦志先生が帰国される予定です。今年度は2月から盛田清秀教授が中期海外派遣研究員として英国に留学されます。学科教員の益々の活性化が期待されます。



水野如美 実験助手

(磯田みゆき)

あすなる会

◇森林資源科学科◇

連絡先 森林環境保全研究室
0466-84-3674 事務局長 阿部 和時
E-mail: kazuoab@brs.nihon-u.ac.jp

校友による講演会を開催

平成18年10月14日(土)理事会開催にあわせて、校友による在学生向けの講演会を開催いたしました。演者は平成17年度農林水産祭天皇杯を受賞された田中惣次氏(18期)と、間伐・間伐材利用コンクールにおいて林野庁長官賞を受賞された天竜森林組合・吉良達氏(45期)にお願いし、森林・林業をとりまく現況と将来について語っていただきました。在学生も興味津々で、講演に聞きいていたようです。

平成19年度あすなる会 総会・懇親会を開催

平成19年10月13日(土)、アルカディア市ヶ谷において、総会及び懇親会が開催をいたします(隔年開催)。

皆様お誘いあわせの上ご参集ください。

学科の人事

本年4月に大河和夏助手(日本大学大学院博士課程平成19年3月修了)、菅原真由美実習助手(平成19年度森林資源科学科卒業)が着任されました。3月には、鈴木和夫教授が退任されました。

夏の実習

夏休みといえば、学外実習のシーズンです。北海道八雲演習林では1年生の森林資源科学実習が、水上演習林では2年生の森林計測学が行われました。それぞれの場所で楽しく学んできました。

2年生の森林生態学実習では、鳥海山へ行ってきました。鳥海山は、秋田県・山形県の県境をなす山で、ここに演習林はありませんが、秋田県側の山麓にブナの天然下種更新試験地があります。試験地は、国有林や他団体が共同で、ブナの天然下種更新施業のあり方を検討するために昭和41年に設置したもので、元教授・片岡寛純先生が長年にわたって研究調査を続けてきた場所です。現在は、本江一郎教授がその試験地を引き継いで守っています。今回は、16名の学生が、それを見学してきました。この地方は食べ物の美味しい所です。岩ガキ、生シャケ、由利牛、ジャージー牛乳、キリタンボ等々、皆で地域の味を満喫してきました。

写真は、ブナ林ではなく、この地域にある天然スギ、鳥海ムラスギです。10年ほど前の台風で森林が倒れ、残ったのがこの巨木と他のわずかなものだけです。貴重な樹木の周りに集まりました。

皆様へ

あすなる会々員のご活躍の様子を、お知らせください。自薦、他薦、どのような形でも、どのようなことでもお知らせいただければ幸いです。当誌をはじめ、会報記事として掲載させていただきたいと存じます。よろしく願いいたします。(鍛代邦夫)



鳥海ムラスギに集まる学生たち
森林生態学実習

桜 水 会

◇海洋生物資源科学科◇

連絡先 海洋資源育成環境学研究室
0466-84-3680 事務局長 杉田 治男
E-mail: sugita@brs.nihon-u.ac.jp

平成19年度桜水会 総会・懇親会・学術講演会を開催



平成19年度桜水会懇親会

平成19年6月23日(土)午後2時より湘南キャンパス10号館において平成19年度理事会・代議員会および総会が開催されました。吉田会長の挨拶の後、平成18年度事業報告、決算報告、監査報告があり、承認されました。続いて、平成19年度事業計画案、予算案、桜水会会則の一部変更などが審議され、承認されました。本年度は午後3時30分より、辻 雅司氏(24期、水産タイムズ社取締役編集部長)による学術講演会「演題:転換期にある日本の水産業と経済界からの政策提言」も開催されました。さらに午後5時より会場を食堂棟3階NUホールに移し、盛大に懇親会が開催されました。数年前より卒業生と準会員である在学生との交流を深める意味で、各研究室より若干名の4年次学生も参加し、出席会員と若

い在学生の両者の懇親が強く深められ、大変好評でした。

学科の近況

【新入生】

海洋生物資源科学科は本年4月に生物資源科学部で最も多い新入生189名(男子121名、女子68名)を迎え、全在籍学生数は649名(6年生の獣医学科を除くと最も多い人数)になりました。女子学生の比率も毎年約4割が続いており、殆どが男子学生だった水産学科の頃と著しく様変わりし



新入生オリエンテーション

ております。新入生オリエンテーションとして4月28日(土)に鶴沼海岸で地引き網および新江ノ島水族館見学を行いました。当日は魚の調理実習も実施し、アジの3枚下ろしに悪戦苦闘する新入生の姿もみうけられましたが、海洋生物資源科学科に入学したとの認識を新たにすることができました。また、各班に分かれて学科教員と食事・懇談および移動を共にし、学生間および学科教員との交流を深めることができました。

【JABEE認定中間審査】

昨年度の校友会報で、海洋生物資源科学科の「専修コース」は、技術者教育の質的同等性を国際的に認め合うことを取り決めたワシントン協定(Washington Accord)の加盟機関・日本技術者教育認定機構(JABEE)の認定基準に適合していることが2005年度から認められた事を報告しました。また、本コース修了生は国家資格である「技術士」の一次試験が免除され、「修得技術者」になれることも併せて報告しました。しかしながら、本認定を継続するためには中間審査を経なければならず、本年度はその中間審査の年に当たっております。会員の皆様にはこれまでのご協力に対して感謝申し上げますとともに、今後の認定継続へのご支援を心よりお願い申し上げます。

【人事】

平成19年4月1日付けで、宮内浩二助手が専任講師に昇格されました。先生には今後、学生指導・研究活動での活躍が期待されます。また、2年間に亘り学科のために尽力いただいた藤岡美希(旧姓:岩井美希)副手が本年3月31日をもって退職されました。後任として本年3月に本学科を卒業された榎本亜矢実習助手が着任されました。



榎本亜矢 実習助手

(松宮 政弘)

工 学 会

◇生物環境工学科◇

連絡先 環境土木施設工学科研究室
0466-84-3828 事務局長 青木 正雄
E-mail: m--aoki@brs.nihon-u.ac.jp

会員・準会員との交流・情報交換を通じて更なる活性化をめざす

酒川和男会長を中心とする体制のもと、会の目的である「会員の親睦」と「母校の発展」を実現すべく、学科や準会員(学生)との密接な関係構築に向けた数々の協力・支援活動に加え、工学会ホームページの充実など会員への情報発信を展開しています。

【総会・講演会・懇親会】

平成18年11月25日(土)に、湘南キャンパスで開催しました総会では、前年度に引き続き、講演会を実施しました。

この講演会では、本学科卒業生で准教授の青木正雄先生が取組まれる研究内容から『新潟県中越地震による被害と復興』と題した講演の他、本学科とも大変馴染みの深い、田添正氏(日本大学法学部第二部学生課長)を講師として招き『日本大学と共に40年～私の人生体験～』と題しての講演をいただきました。講演のなかで紹介いただいたスライドでは、会員



講演会の様子

にとっては懐かしく、準会員には驚くようなかつての湘南キャンパスの姿が映し出され、変遷のエピソードとともに本学及び本学科の発展の軌跡を世代を越えて共有する機会となりました。また、酒井健夫学部長をはじめ、校友会各分科会長を迎えての懇親会においても会員と準会員との交流がなされました。

【準会員との交流・支援】

スポーツフェスタにおける学科Tシャツや卒業時の記念品の贈呈等の他、一年生の授業のひとつである「フレッシュマンセミナー(FS)」への支援協力を実施してきました。これらに加え、新たに「工学会会長賞」を設け、卒業式において学生を表彰しました。この賞は学業のみならず地域社会貢献等に励んだ学生を表するもので6名に授与しました。

【工学会ホームページによる情報発信】

本会では、ホームページ(HP)の整備により、会員・準会員に対する情報提供の充実化をはかっています。HPでは、年間の事業計画やイベント情報(年間予定・トピックス・イベント記録写真)などが掲載され、随時更新しています。是非ともHPへ(<http://www.bae-kougakukai.org>)アクセスしていただき、イベント等にご参加ください。

また本会HPでは、学科の先生方からのご協力を得ながら、学科HP等との連携を通じてOBOG会として支援できる就職情報提供や学科振興に関する事業を展開していく所存です。

学科の動向

【一年生の学外実習の実施】

暫く実施していなかった一年生全員参加での学外実習を千葉県鴨川市でおこないま



鴨川での地引網体験を終えて

した。今後の学びの舞台となる農山漁村地域でのフィールドワークや学生全員が力と心をひとつにあわせた地引網体験は学生たちの良い経験となったようです。本会では、FSの一環として支援をおこないました。

【人事】

平成19年8月、中村良太教授が定年のため退職されました。長い間ご苦労様でした。これからもご健勝で活躍されますことを願う次第であります。

【研究活動等】

都甲淳専任講師が『パン生地中のパン酵母の3次元可視化』のテーマで日本冷凍空調学会より日本冷凍空調学会賞学術賞を受賞されました。また、山本富久氏(昭和49年3月卒、静岡県立天竜林業高校教諭)が『集団茶園地帯からの流出負荷に関する研究』のテーマで、平成19年3月に博士(農学)を取得されました。おめでとうございます。今後のさらなるご活躍を期待したいと思います。

【事務局より】

会員の皆さまで、住所変更や改姓がございましたら、お手数ですが上記までE-mail又はお葉書にてご一報ください。(藤沢直樹)

F T 会

◇食品科学工学科◇

連絡先 食品学研究室
0466-84-3981 事務局長 竹永 章生
E-mail: takenaga@brs.nihon-u.ac.jp

F T 会活動報告

○F T 会理事会開催

F T 会理事会が平成19年4月14日午後4時より本学湘南校舎食品科学工学科会議室において行われました。理事会では平成18年度事業報告および会計収支決算が報告され、承認されました。さらに、平成19年度事業計画案および会計収支予算に関して報告が行われ、承認されました。

○平成18年度 F T 会総会開催

平成18年度F T 会総会が平成19年6月9日午後3時より本学湘南校舎において行われました。総会は関村 具由会長(第1期生)の挨拶で開会し、平成18年度事業報告および会計収支決算が報告され、承認されました。さらに、平成19年度事業計



画案および会計収支予算に関して報告が行われ、承認されました。

○準会員(在学生)への活動

平成18年10月にF T 会補助のもと、3年生と教員との懇親会が盛大に行われました。平成19年3月25日には第42期学生の中から学業および人物優秀な学生へ贈られるF T 会長賞を授与いたしました。平成18年



度は榎本麻衣さんと秋本英也さんが選ばれ、金一封が贈られました。また、今年度は新たに新入生歓迎会を平成19年5月19日に



行いました。当日は晴天の中、バーベキューを楽しみながら、和気あいあいと学生同士、

または教員と至る所でお話しが弾んでました。その一週間後の5月26日には学部スポーツフェスタが行われ、参加した新入生へ飲料物を補助いたしました。スポーツフェスタはたいへん盛り上がり、成績は歓迎会の甲斐あって、見事、優勝という素晴らしい結果でありました。

学科の近況

○新任

森永 康 教授が平成19年4月1日付で食品微生物学研究室(旧5研, 旧食品保蔵学研究室)に所属されます。森永先生は味の素(株)より着任され、食品微生物による健康機能性素材などの有用物質生産、及び、微生物のもつ環境適応機構を利用した微生物機能の改変を目指して研究を行っております。

事務局より

会員の方で、住所変更や改姓などがございましたら、ぜひ事務局までお知らせ下さい。また、新しくF T 会のホームページ(<http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/%7Eftkai/index.php>)を開設しました。こちらのページからも各種変更届を受け付けております。

(阿部 申)

拓 友 会

◇国際地域開発学科◇

連絡先 国際経営流通研究室
0466-84-3457 事務局長 早川 治
E-mail: osamu@brs.nihon-u.ac.jp

1 年次オリエンテーションを江ノ島で実施

今年度の新入生オリエンテーションが5月19日(土)に「かながわ海岸美化財団」の協力を得て、環境美化活動として江ノ島片瀬東浜でおこなわれました。環境保全・ボランティアについて、地元で実践体験してもらうことが狙いでした。学科教員を含め約100人が、午前午後と約4時間にわたり汗を流しました。翌日の神奈川新聞にも報道され、本学科の地域貢献を地域にアピールすることができました。



学科紹介パンフレット出来る

拓友会の協力を得て、魅力的な学科紹介パンフレットが作成されました。どこへもお送りいたしますので、請求は事務局までご連絡下さい。また、学科ホームページ

もリニューアルしていますので是非ごらな下さい。<http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~ids/>

中国・海南島、広州で海外研修を実施

学科主催の海外研修は平成18年12月22日~29日の期間で、中国の海南島と広州で実施されました。海南島では、海南大学で海外における危機管理講座、海南島の歴史、民族、自然、農業について講義を受けたり、リー族、ミャオ族の村を訪問し少数民族の生活や文化を学びました。広州ではアグリビジネスの現場研修のため、中央卸売市場、大規模野菜農場や食用鳩生産・加工工場を見学し、ダイナミックに変貌しつつある中国を実感できました。今回の研修は本学科OBで現在、海南大学客員助教授の桑村和朝先生に企画から官公庁との折衝まで細部にお世話になりました。学生たちにも海外で活躍するOBの存在はとても刺激になったようです。

◆新任・昇格・退任

【新任】

青山和佳准教授
慶應義塾大学出身。本年4月より着任され、共通科目のほか「開発社会学」「宗教社会学」「国際関係論」などを担当。主な研究対象フィールドをフィリピン南部に置き、



青山和佳 准教授

社会、民族をはじめ幅広い研究を進められています。モットーは“研究は遊び、遊びは研究”。これからのご活躍を期待します。

【昇格】

林幸博先生;助教授から教授(研究所)に昇格されました。環境生態学他を担当。

【退任】

中島卓介教授;「資源作物学」他を担当されました中島先生が、6月に定年退職されました。どうもありがとうございました。権丈敬次専任講師;「熱帯園芸学」「生産技術実習」等を担当し、学科のOBとして学生指導に情熱を注いでこられました権丈先生が8月に定年退職されました。長い間ありがとうございました。

学科70周年・拓友会60周年
記念祝賀会開催の予定

本年は、旧専門学部拓殖科が1937年(昭和12年)3月に設立されて70周年、また、拓友会が1947年9月に結成されて60周年の節目の年にあたります。そこで、現在下記の通り記念祝賀会を開催する準備を進めております。今回の祝賀会にはそれぞれの研究室の卒業生を中心として参集できるような企画を検討しています。詳細は追って「拓友会報」やホームページで皆さんにお知らせしますのでご期待下さい。

開催予定年月日:平成19年12月1日(土)

時間:午後3時30分から

場所:日本大学生物資源科学部
本館地下「カフェテリア」

むつあい会

◇短期大学部農学科◇

連絡先 植物生態研究室
0466-84-3792 事務局長 寺澤 輝雄
E-mail: terasawa@brs.nihon-u.ac.jp

平成19年度 むつあい会総会・懇親会開催

平成19年6月23日(土)午後3時から湘南キャンパス博物館(1号館)2階第1会議室において平成18年度総会が開催されました。鈴木勝春(8期卒)会長の挨拶の後に18年度事業経過報告、18年度決算報告、滝沢 章(14期卒)監査報告などがあり承認されました。ひき続き、平成19年度事業計画案、予算案が厳正に審議され承認されました。懇親会は会場を変え食堂棟2階教員食堂にて懇親会が開催されました。むつあい会会長、生物資源科学部長(代理 学部次長 徳山龍明教授)、農学科長の挨拶や来賓紹介などがあり、会員の他に準会員も加わり、終始和やかな雰囲気で開催されました。



学科の近況

平成19年4月1日から青山友雄先生の定年退職に伴い農学科長が青山友雄先生から渡邊慶一先生(果樹園芸学・植物資源利用学研究室)にバトンタッチされています。宜しくお願い致します。

【在籍者数】

平成19年4月より短期大学部生物資源学科の新設に伴い、農学科は2年次のみとなり、平成19年の在籍者は46名(女子24名)が在籍者しています。

【卒業生の進路】

平成19年3月25日、50名(55期)が卒業し正会員になりました。卒業後の進路は多くは編入学で25名が生物資源科学部、他大学部3名編入、専門学校4名、就職者は神奈川県庁、J R東海、日本大学職員、神奈川県銀行など8名、自営(農業)1名、で今年4月から新社会人となりました。その他9名でした。卒業生の累積者数は3554名となり多くの卒業生が社会で活躍しています。

【退職】

平成13年4月より農学科長を務めてきた、青山友雄先生(情報処理学・演習)が今年3月をもって退職されました。ご苦労様でした。先生は旧農学科の時より本学に三十数年の長きに亘って勤務され、情報処理学、コンピュータ演習、農業機械学、測量学・実習等の科目を精力的に担当され多数の卒業生を輩出されました。本年度は引き続き非常勤講師として本学の教育に携わって戴いています。

事務局より

事務局では常に新しい卒業生・会員の動向をファイルしています。会員のみなさんの住所変更などがありましたら事務局までお知らせ下さい。今年4月より寺澤・安齋が事務局を務めます。宜しくお願い致します。(寺澤 輝雄)

短期大学部新任紹介

既にご存じの通り、短期大学部では農学科・生活環境学科を発展的に解消し、新たに生物資源学科を設立しました。それに伴い、山下正道准教授(食品学)・光澤 浩准教授(生物学)・角田亜未実習助手の三名をお迎えしました。農学科・生活環境学科の二年生も一年生ながら、講義等でお世話になっています。



山下正道 准教授



光澤 浩 准教授



角田亜未 実習助手

生活環境学科校友会

◇短期大学部生活環境学科◇

連絡先 短期大学部生活環境学科 住居学研究室
0466-84-3751 事務局長 飯尾 満
E-mail: mlio@brs.nihon-u.ac.jp

2006年度校友会 総会・懇親会の開催

2006年度の総会・懇親会は、11月18日に横浜中華街の「聘珍楼」において開催されました。生活環境学科としては本年を最後として募集停止となったことも影響してか、懐かしい方々が多く参加されました。



学科の近況

【生活環境学科の廃止と新学科の設立】

今年は新学科として生物資源学科が立ち上がり、112名の学生が入学してきました。従って現在の短大は、生活環境学科・農学科の二年生と生物資源学科一年生の寄り合い所帯となっています。しかし、そこは社交的な明るさが売りの生活環境学科生、恒例の軽井沢研修やゼミ活動などで全く違和感なく「下級生」の面倒を見えています。

これも「生きる力」の一つだと頼もしく感じています。

【卒業生】

2007年3月に93名が無事卒業しました。卒業後の進路は、生物資源科学部編入49名、他大学編入14名、大学・短大への新規入学、実習生2名、専門学校2名、就職7名、その他はアルバイト・家事などでした。他大学への編入は山形大学、日本女子大学、日本大学国際関係学部、東京農業大学、麻布大学などがあげられます。また就職については、日本大学をはじめとして、横浜桜ヶ丘郵便局、城南信用金庫、丸井、ヨネヤマプランテーション等様々な分野への進路実現を果たしています。

【在学生】

本年度の生活環境学科生は二年生のみとなり、80名の学生が在籍しています。

【退職】

大川いずみ助教授(食品学)がこの六月をもって退職されました。飄々とした態度で講義に臨まれる先生は、特に女子学生の人気が高く、毎年多くの学生が先生の薫陶を受け手、食品科学工学科をはじめとした食品関連分野に進んで行きました。先生のこれからのご健康とご活躍をお祈りします。

事務局より

会員の方々に住所変更や改姓がございましたら、お手数ですが上記までメールかお葉書にて御一報下さい。(蒲原 義明)

応用生物科学科校友会

◇応用生物科学科◇

連絡先 蛋白質科学研究室
0466-84-3700 事務局 司馬 肇
E-mail: chang@brs.nihon-u.ac.jp

応用生物科学科の近況

【在籍】：現在応用生物科学科の在籍学生数は574名、学年別では、4年生141名、3年生140名、2年生146名、1年生147名となっています。大学院に関しては、応用生命科学専攻に在籍する本学科の学生数は博士前期課程40名、博士後期課程3名となっています。

【異動】：副手の遠藤慈子さんは動物医科学センターへ所属替となりました。短い間ではありましたが、本当にお世話になりました。心より御礼申し上げます。今後のますますのご活躍をお祈り申し上げます。

【新任】：本年4月1日付で応用生物科学科の学科主任に花澤重正教授が就任されました。本年4月1日付で、遠藤さんの後任として、農芸化学科の卒業生である定野友美さんが実習助手として着任されました。現在、学生実験や学科の事務などを行っており、応用生物科学科のために頑張っております。

【海外留学】：岩淵範之先生(分子微生物学研究室)が本年3月にオランダのフロンインゲン大学より無事ご帰国されました。

【その他】：学校教育法の改正に伴い、教員の職階は教授、准教授(旧助教授)、講師、助教(旧助手)、実習助手(旧副手)となりました。



バレーボール試合の風景(写真1)



優勝した分子微生物学研究室チーム(写真2)

協賛活動

平成19年8月31日に4年生、大学院生、研究生、教員による研究室対抗バレーボール大会が応用生物科学科校友会協賛のもと、体育館で盛大に行われました(写真1)。参加者は皆、いい汗を流し、笑顔で楽しい一日を過ごし、お互いに親睦を深めていました。決勝戦は、昨年と同様に分子微生物学研究室チームと核酸科学研究室チームの組合せとなりました。本年は分子微生物学研究室チーム(写真2)が核酸科学研究室チームを打ち破り、見事に優勝しました。植物細胞学研究室チームは今年も健闘し、3位に入賞しました。

事務局より

今後、事務局では会員の皆様方が校友会に対して何を期待しているのか、どのような総会・懇親会を望んでいるのか、どのような活動を行ってほしいのかなどについて把握していきたいと考えております。皆様からのご意見、ご提案をお待ち申し上げます。

最後に、住所変更、改姓、お問合せ等ございましたら、お手数ですが、事務局までご連絡ください。

(司馬 肇)

支部だより

宮城県支部の近況

連絡先
〒981-3131 仙台市泉区七北田字町31番地
小野 隆 事務所 支部長 小野 隆
TEL.022-372-4637 FAX.022-374-8844
E-mail:takashi@enax.net



9月2日(日)江陽ランドホテル(仙台市)にて平成19年度(第4回)総会・懇親会を開催しました。内田俊太郎(拓植・S43)校友会副会長、遠藤文雄(医学部・S34)オール日大校友会宮城県支部長、新関博夫(獣医・S45)校友会山形県支部幹事長にご臨席いただき、鎌田雅敬幹事長(農化・S52)の司会で開会。小野隆支部長(食工・S41)より謝辞、開会挨拶申し上げ、ご来賓の皆様からご祝辞・ご挨拶を頂きました。

総会は、小野支部長を議長に櫻田昇幹事・会計(拓植・S47)が議案説明し、提案した議題は原案通り承認いただきました。会員の勧誘、名簿の作成、学部校友会・支部校友会との連携・交流、親睦会の開催をはじめ、全日本大学女子駅伝対抗選手権大会(杜の都駅伝)開催地校友会として母校の沿道応援を確認しました。懇親会は、持丸祐幹事(食経・S60)の司会で開会。片岡俊正(農工・S59)さんの

開会挨拶、泉野三郎(水産・S35)さんの発声で乾杯し、それぞれの近況報告や小野支部長からフィギュアスケート金メダリストの荒川静香さん、プロ野球のダルビッシュ有投手、女子ゴルフの宮里藍選手の出身校、東北高校の日大付属高への経過や、内田副会長から校友会正会員会費の一部支部活動費還元について、遠藤オール日大宮城県支部長から箱根駅伝応援に負けない熱い応援協力について、新関山形県支部幹事長から仙山交流の連携など、時間の経過も忘れて和気藹々とした懇談の中でありましたが、次回の再会を楽しみに全員で校歌を斉唱し、飯塚晃朗(水産・S41)幹事の唱和で万歳三唱して盛会の中にお開きとなりました。

(事務局 櫻田 昇)

山形県支部の近況

連絡先
〒990-2433 山形市島居が丘4-55
日本大学山形高等学校 池田 卓郎
TEL.023-641-6631 FAX.023-641-6634
E-mail:t_ikeda@ymgt.hs.nihon-u.ac.jp



平成19年度山形県支部総会が平成19年2月10日(土)に、かみのやま温泉「にほんの宿 古窯」にて会員28名、来賓5名の計33名の出席のもと、総会、懇親会を開催いたしました。来賓として生物資源科学部校

友会から楠本守会長代理・代行、食品経済学科・大矢祐治教授、生物資源科学部前事務局長・松橋一三先生、日本大学山形高等学校・中学校・名古屋逸校長、工科系校友会・小林高明支部長のご臨席いただきました。

総会は小松文嗣支部長の挨拶の後、来賓各位がご紹介され、その後議長に藤澤純(農芸化学科・S59)を選出し、会務報告、会計報告、収支予算(案)等が全て原案通り可決決定され終了しました。小松支部長の挨拶の中で、山形県支部は「若返りを図る」を目標としてきましたが、若手会員中で「参加してよかったと思える総会にしてほしい」という意見もあることから、もっと校友会のPRを行い、会員が興味をわく新鮮な情報交換の場にすることが必要であると話されました。

総会終了後、日大山形高等学校卒で初の教授になられた食品経済学科・大矢祐治教授より「食品メーカーの特徴と海外進出—しょうゆメーカーを事例として—」と題し大変わかりやすい身近なテーマを具体的な例を挙げながらご講演いただきました。引き続き楠本守校友会会長代理・代行から「校友会の近況」、名古屋逸校長からは「日大山形高等学校の近況」お話をいただきました。

お楽しみの懇親会では小松文嗣支部長の挨拶、来賓からのご挨拶をいただき乾杯となりました。恒例の学科毎の自己紹介、近況報告など多岐多彩な面白い話で盛り上がり、参加者をいかに多くするためにはどうするか等熱心な話し合いもされました。

最後に日本大学校歌を声高らかに斉唱し、次回の再会を誓い盛会のうちに宴が閉じられました。

(副支部長 植松恒美)

山梨県支部の近況

連絡先

〒405-0044 山梨市市川1403
支部長 古屋 勝美
TEL・FAX.0553-22-5183
E-mail: furukathu1211@fruits.jp

活動報告と総会

1年間の支部活動報告は、学部会報及び会費徴収と合わせて会員573名(住所等不明26通)に郵送しました。

定期総会は、規約では毎事業年度開催することになっていますが、今まで、2年に1回の開催でしたので、18・19年度についてもこれを踏襲し来年盛大に開催する予定です。これから、事務局会議及び役員会等を開催するなかで取進めてまいります。

県支部会員へお願い

県支部の会員数は、平成10年度末現在716名、会費などの振込をいただく会員は極めて寂しい状況です。この会は、学部を卒業し山梨県内に居住する校友の絆と親睦を深めるため、多くの先輩が苦勞して築き上げたものです。役員一同、地味ながら継続した活動を進めるよう努力してまいります。

ついで、会員各位においても同期の友達や職場内での校友への声かけなど、一人でも多くの校友に参加頂きますようご配慮をお願いします。(古屋記)

高知県支部の近況

連絡先

〒780-0084 高知市南御座9-19
事務局 前川 卓也
TEL.088-880-0538
E-mail: maekawa@mb.inforioma.or.jp

去る9月1日(土)高知市の料亭「葉山」において、第19回高知県支部が開催されました。ご来賓の茂澤本部長校友会会長、応用生物科学科の司馬肇 准教授、特別会員の高坂鉄雄先生を県内各地から集まった校友が囲み23名の出席となりました。

総会は18年度にお亡くなりになった会員3名に黙祷をささげ、森田支部会長挨拶ではじまりました。18年度事業として山形県支部との交流会を計画しておりましたが、当支部の

事情により残念ながら中止となった経緯などの報告がありました。計画段階において色々とお骨折りがございました山形県支部の皆様、紙面をお借りしてお詫び申し上げます。

引き続きご来賓からのお祝いの言葉を頂戴致しました。



司馬先生には沢山の資料をご送付いただき日本生命科学分野の先駆けである応用生物科学科のなりたちや現況、現在の学生の動向・設備・活動についてお話をいただきました。

茂澤会長は今任期満了をもって会長職を退くことにふれられ、本部事務局組織改変、本部校友会役員組織の改革についてもお話いただきました。任期満了までは全力をもって会長の任にあたるという力強いお話でした。

高坂先生からは、同世代や教え子までが倒れたりお亡くなりになったことが最近増えてきたことに触れ、その方々との思い出などをお話いただきました。「私もそろそろ体力、財力ともに衰えてきたので、来年からは高地支部への出席は隔年で開催したい」と冗談交じりにおっしゃっていましたが、お帰りの際には「やはり支部会は盛り上がり楽しい。隔年出席のお話は撤回しようかな」と仰っていただきました。

続いて議長に森田会長を選出し平成18年度事業および収支決算報告、平成19年度活動方針および予算と滞りなく進みました。

来年高考支部は20周年を迎えます。この記念事業として、また長年お世話になった茂澤会長のお見送りの意味も込め、本部総会に多くの支部会員で参加する計画を進めることを決定いたしました。その節は是非よろしくお願ひ申し上げます。

続いて当支部最長老の竹村守暉先輩の乾杯で懇親会が開催されました。全員で楽しく自己紹介などもおこないながら、楽しい懇親会となりました。

最後に岡林寿男先輩の音頭で全員で校歌を斉唱し、日本大学にエールを送ってお開きとなりました。

(事務局 前川卓也)

校友会事務局からのお知らせ

【学部祭】

今年、10月27日(土)～29日(月)に行われる藤校祭は皆様に楽しいイベントが盛りだくさんです!!1日目のメインコンサートには土屋アンナさんをお呼びしています!!それだけではなく、生物資源科学部ならではの、環境のことを考えた情報発信したり、本学部祭で使用している皿やコップはバイオトレイという土に還るエコロジーな容器を使用したりしています!!楽しんで、ためになる!!藤校祭にどうぞお越し下さい!!

【箱根駅伝応援】

1月2日(土)、3日(日)の2日間、藤沢・遊行寺坂上の「焼肉ヨシドン」(神奈川スバリ)前を中心に、沿道を校友会旗と共に応援します。駅伝コースに存在する唯一の学部です。多数の応援、熱い声援を送りましょう。ご参加下さい。

【総会・懇親会】

20年度総会・懇親会は本年同様藤沢・湘南キャンパスにて行う予定です。学部校友会は60周年を迎えます。恩師・旧友と旧交を温めませんか。総会は7月12日(土)を予定しています。

【その他】

ホームページには新しい情報掲載に努めていますが、皆様からのホットな情報提供をお願い致します。ホームページのメール欄からお願いします。

日本大学生物資源科学部校友会事務局
〒252-8510 藤沢市亀井野1866
TEL&FAX 0466-84-3799
E-mail koyukai@brs.nihon-u.ac.jp

校 友 だ よ り



2000年生活環境学科卒
高木 慎平
ラオス ビエンチャン
日本人日本語
補習授業校選任教員

みなさんはメコン河を、そしてラオスという国をご存知でしょうか?

メコン河は中国チベットに発し、インドシナ半島を経てベトナムから南シナ海へ注ぐ全長約4,000キロに及ぶ大河です。現在私はその中流付近に面したラオスの首都ビエンチャンで在留邦人の子供達に日本語を教える仕事をしています。短期大学部生活環境学科から生物資源科学部(国際地域開発学科)に2年次編入し、卒業後一旦は会社員になりましたがメコン川の魅力に取り憑かれて3年半で退職し、単身ラオスへ渡りました。暫くは手探りの日々が続いていましたが、運良く現地の大学にも入学を認めてもらうことができ、そこでラオス語やラオスの文化などについて学びました。

ラオスは東南アジア唯一の内陸国。国民の平

均所得が日本人のおよそ100分の1程度と、数字の上では貧しい国ですが街は活気に溢れています。首都ビエンチャンの人口は約60万人で、単車や自動車が騒々しく行き交うラオスで唯一都会と呼べる場所です。でも一歩郊外に踏み出せば、閑閑な田園と壮観な山並みが広がる「田舎の風景」が果てしなく続きます。また生鮮市場では、野菜や川魚は勿論のこと、一年を通じて様々な熱帯の果物がところ狭しと並んでいたり、豚の頭が姿のまま陳列されているなど驚きでいっぱいです。しかし実際に住んでみると、ラオスも日本や他の東アジア諸国と同じ稲作文化圏(主食はもち米)であり、私達の文化と共通の文化も多く存在することがよくわかります。こんなラオスに一度足を運んでみられてはいかがでしょう? 賑やかな流れのメコンに沈む夕陽を見ながら一緒に至福の瞬間を味わいましょう。

日光の豊かな自然を

味わいに来ませんか・・・



昭和47年 拓殖学科
(現、国際地域開発学科)卒
阿原 正明
(現、日光観光協会理事、日光ベンション共同組合代表理事)

平成18年3月に55市町村が合併し、新しい日光市が誕生しました。本市は、栃木県の北西部に位置し、日光国立公園に代表される自然環境の豊かな地域です。また、世界遺産に登録された「日光の社寺」、「日光杉並木街道」などの歴史・文化遺産や、随所に湧出する温泉などの観光資源にも恵まれ、地域振興に重要な役割を果たしてきましたが、主要産業である観光業は、昨今の経済状況・観光ニーズの変化などに伴い、観光入込客数が減少するなど深刻な問題に直面しています。かつての活力を取り戻し、魅力あるまちづくりを展開していくために、自然と歴史と産業が響きあう、「四季の彩りに風薫るひかりの郷日光」の実現のために、地域の再生計画に参画し、昨年より新たな源泉を確保して、多くの人々に自然と憩いを提供しています。

ホテル業を通して、日光の自然環境を保全しつつ、観光業の発展に努め、地域の活性化の一助を目指しています。

ホテル ユーロシティ、カジュアルユーロでは校友の皆さまのご来臨をお待ちいたしております。

<http://www.eurocity.jp/main.html>
もあわせてご覧下さい。

日本大学校友会館建設について(ご報告)

日本大学校友会では校友会館の建設実現に向け、平成16年6月4日付けで「日本大学校友会館設置準備特別委員会」を設置し、度重なる慎重審議を経て、平成17年4月30日に田中英壽校友会会長宛に答申を行いました。

その後、同委員会は「日本大学校友会館設置特別委員会」に組織変更し、「法人化、資金、計画・建設」の三つのワーキンググループを立ち上げ、日本大学の規模に相応しい形態・具体的プランを(1)校友会館の役割と使命、(2)校友会館の将来構想と利用方法、(3)設置の時期と立地条件及び場所、(4)設置の為に資金運用方法及び調達方法、(5)土地及び建物の規模、の5つに絞り模索しております。

校友の帰属意識と絆を深められる校友会館施設を考慮し、早期に建設される事により、日本大学校友会正会員の増加に資する事を鑑み、日本大学創立120周年を迎える2009年10月4日を目標に準備を進めています。

生物資源科学部校友会からも校友会館設置特別委員会委員として赤塚敏夫副会長(あすなろ会会長)、内田俊太郎副会長(拓友会会長)が参加しております。(内田:記)

あなたとともに
100万人の仲間とともに



自主創造
日本大学

日本大学教育理念「ロゴ」「キャッチフレーズ」がきまる

自主創造 教育の理念と目的を「自主創造」と決定しました。理由として

(1)学則の「目的及び使命」に「自主創造」が記されており、大学の文書、資料等にも繰り返し「自主創造」が謳われています。

(2)「自主創造」は大学教育の「普遍的な理念と目的」を端的に示しています。

(3)日本がキャッチアップの段階から成熟期を迎え、「自主創造」の気風に満ちた人材の育成が求められており、21世紀が知の世紀と強調され、その知は「積極的な知」、つまり「自主創造の知」であり、グローバル化に対応できる人材の要諦が「自主創造」であることから、それぞれが学ぶ領域や活動体験を生かし「自主創造」のできる人材の育成を目指します。

ロゴは「Nドット」と呼びます。

日本大学カラーの「緋」を使用し、頭文字の「N」を力強く躍動感のある書体で表しています。「N」の横の●は建学の精神である「日本精神」「日本の伝統・文化の尊重」「個の尊重」とともに「輝く太陽」を意識しています。この色NICHIDAI REDとします。

キャッチフレーズの「あなたとともに」と「100万人の仲間とともに」は、愛情を込めた連帯感を表現しています。日大人100万の絆とパワーを表し、他の大学にはない日本大学の特色を打ち出したものです。

日本大学生物資源科学部校友会 役員・事務局名簿

名誉会長	酒茂 楠中	井澤 元川	健 秀	夫 果守	(獣医)
会長	赤吉 酒関	田村 木井	敏 良	夫 果守	(農化)
副会長	内 鈴	村 木	和 具	夫 果守	(植物)
	大 石	谷 刺	太 勝	夫 果守	(獣医)
	江 山	本 地	三 知	夫 果守	(食経)
代表幹事	勝 木	野 嶋	武 弘	夫 果守	(森林)
	長 田	尾 中	弘 壯	夫 果守	(水産)
	丹 小	羽 杉	七 男	夫 果守	(環工)
	中 大	村 矢	次 彦	夫 果守	(食科)
	宮 島	吉 夫	治 夫	夫 果守	(国際)
				夫 果守	(短農)
				夫 果守	(短生)
				夫 果守	(農学)
				夫 果守	(農化)
				夫 果守	(動物)
				夫 果守	(国際)
				夫 果守	(植物)
				夫 果守	(農化)
				夫 果守	(獣医)
				夫 果守	(動物)
				夫 果守	(食経)
				夫 果守	(森林)

幹 事	阿 部	和 太	時 郎	(森林)
	山 崎	正 重	敏 則	(海洋)
	鈴 青	章	雄 生	(環工)
	竹 千		誠 治	(環工)
	早 飯		生 誠	(食科)
	司 馬		治 崇	(食科)
	岡 安		朗 寛	(国際)
	渡 邊		寛 介	(応生)
	飯 尾		満 進	(応生)
	櫻 村		昇 樹	(短農)
相談役	富 遠		樹 克	(短生)
	千 濱		徹 敏	(短生)
監 事				(海洋)
				(環工)
				(短農)
				(動物)
				(食経)
				(森林)

【事務局】				
事務局長	村 山	進 (食経)		
(事務局長代行)				
事務局員	山 本	捷 (動物)		
事務局員	熊 澤	恵 美子		

会報編集委員

農学校友会	野 村	和 成
紫 友 会	荻 原	淳 洋
角 笛 会	鯉 江	裕 裕
満 喜 葉 会	山 室	み ゆ
いもづる会	磯 田	き 夫
あすなろ会	鍛 代	邦 夫

桜 水 会	松 宮 政 弘
工 学 会	藤 沢 直 樹
F T 会	阿 部 申
拓 友 会	早 川 治
むつあい会	安 齋 寛
生活文化会	原 明
校 友 会	司 馬 肇

発行所

日本大学生物資源科学部 校友会
〒252-8510 神奈川県藤沢市亀井野1866
TEL・FAX 0466-84-3799
E-mail: koyukai@brs.nihon-u.ac.jp
編集・発行 広報・企画委員会 委員長 関村 具由
印刷所 ベーシックプリント
TEL 048-833-3086 FAX 048-833-3128
E-mail: bphide833@yahoo.co.jp